

出家

『ゴータマ・シッダールタは、父スドーダナ王の強い勧めによって()と結婚して家庭生活を営み、子()もすでに誕生していた。しかし、()歳の時、その地位や家族など一切を棄てて出家し、一人の沙門となることを決意した。』

P52 を参照して、上の文章の空欄に適語を入れてください。

王子の地位」ってなんでしょうか。()

出家の決意

実には()自身も、老いるもの・病むもの・死ぬものであり、老いること・病むこと・死ぬことを避けられぬ身でありながら、()が老い・病み・死ぬのを見て、とまどったり忌み嫌ったりすべきであろうか。いや、それは決して正しいことではない、と。私がこのように自身を省みた時、()に対する空しい誇り、()に対する空しい誇り、()に対する()しい誇りはまったく消え失せてしまった。』

(『アングuttara・ニカーヤ』より)

P53 を参照して、上の文章の空欄に適語を入れてください。

ゴータマが出家の決意をしようとしていたとき、わが子の誕生を知らされた。その時、思わず、ゴータマの口から「邪魔者(ラフラ)」という言葉がでた。その言葉が、子の名前となって、「ラフラ」と呼ばれるようになったと経典は伝えている。では、なぜ、ゴータマの口から、「邪魔者」という言葉が出たと思いますか。あなたの考えを書いてください。

()

「出家」と「家出」

あなたは「家出」をしたいと思ったことがありますか。()

それは、どんな理由からですか。()

「家出」とは、なんでしょうか。

()

「()」とは人間の欲望のすべてを放棄して、老・病・死といういのちの事実を直視するなか、本当の安らさ、満足を求めようとするものである。

()教は、「汝の隣人を愛せよ」といふ聖書()の言葉に代表されるように「()の宗教」と一般に呼ばれる。それに対して、()教は、辛くとも事実を直視し、真実を明らかにすることにより、「()の宗教」と一般に呼ばれる。



自己評価 (今日の授業を受けて)

該当に つける A:積極的に参加した B:普通 C:あまり関心がなかった。

感想欄 (今日の授業を受けて)